

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501183		
法人名	株式会社 ケアプロダクト		
事業所名	グループホームライブラリ中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目3-15 ル・パーク中の島2F		
自己評価作成日	平成28年8月	評価結果市町村受理日	平成28年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームライブラリ中の島は閑静な住宅街にあります。近くには精進川湖畔公園があり、公園内を散歩すると野鳥、鳩、春先には鴨を観ることが出来、季節折々の草花を観ながら四季を感じ過ごすことが出来ます。またホーム理念の『和楽』にありますように、入居されている皆様が住み慣れた環境(地域)の中で、穏やかに楽しく過ごせるように家族的な雰囲気をお大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501183-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年9月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学生会館を改装した、鉄筋5階建てビルの2階にある1ユニットの事業所で、スーパー・コンビニ・公園・病院・飲食店・バス停等に近く、利便性が良い。事業所の理念『和楽』は、ホームページ上で公表しパンフレットに明記しており、全職員は朝礼で唱和しケアの実践につなげている。管理者及び職員は、信頼関係と馴染みの関係の中で、利用者と共に過ごす日々を大切にしており、暖かい日の散歩時には、近所の喫茶店で美味しいケーキとコーヒーでゆったりした時間を過ごし、寿司職人が来訪し、居間で作る出来たての寿司を味わうことができる出張寿司や、一人ひとりの誕生日に合わせて外出し、希望のレストランで食事を楽しむ誕生日外出等、楽しみ事や食の支援をしている。また身体機能に合わせ、脳トレ・体操・歩行運動を日課とし、事業所内でも楽しく過ごせるよう工夫している。提供しているサービス内容等を明らかにする運営推進会議は、定期的に関催し利用者・地域包括支援センター職員・町内会役員・民生委員等が出席し、ヒヤリハットや事故を開示し、事業内容の透明化とサービスの質の確保を図っている。恵まれた住環境の中で利用者をやさしく支え、より良い暮らしができる様に支援している、地域密着型事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念及びホーム理念はいつでも見れるように入口に掲げ確認する事が出来る。毎日の朝礼で実践状況の確認をおこなっている。	利用者が、住み慣れた環境や地域の中で、和やかに楽しく暮らせるようにとの思いで作成した、事業所の理念『和楽』は、ホームページ上で公表し、パンフレットに明記している。全職員は朝礼で唱和し、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に加入して、町内の行事(ゴミ拾い・運動会・夏祭り)に参加している。また町内の資源回収への協力も行っている。	町内会に加入している。夏祭り・運動会・クリーン作戦等の地域行事に参加している。また事業所の納涼祭の手伝いや、避難訓練・運営推進会議には地域住民が参加しており、オカリナや絵手紙等のボランティア訪問も依頼している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事や運営推進会議に参加して頂き、入居者様の暮らしぶりを観て頂き認知症の人の理解に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者様、地域住民、民生委員、地域包括センター職員の参加を受け、身体拘束廃止などの取組について報告や話し合いをおこないサービス向上に活かしている。	定期開催している運営推進会議には、利用者・家族代表・地域住民・地域包括支援センター職員等が出席し、行事予定と報告・地域との交流・ヒヤリハット・防災計画等が話し合われ、事業所の運営に効果を上げている。	家族には運営推進会議の参加を働き掛けてはいるが、なかなか出席に結びつかないのが現状である。行事や防災訓練等に合わせて同時開催する等、家族が参加しやすいように工夫した開催を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと運営推進会議を通して協力関係を築いている。また平岸中学校区の「子供110番の家」の登録をしている。	市の担当者とは、待機状況の連絡や必要に応じてアドバイスを受けるなど、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。管理者は、北海道認知症グループホーム協会や管理者連絡会に出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束委員会があり、委員会を中心として、外部研修を受講し外部研修を基に内部研修をおこない職員会議の中で話し合いの場を設けている。夜間帯以外の施錠はおこなっていない。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。スピーチロックについても、運営推進会議や職員会議で検討し、身体拘束や虐待のない自由な生活をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分たちのケアが虐待や言葉の暴力になっていないか、「これで良い」のではなく「これで良いのだろうか？」と注意を払いサービスの在り方を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方がいない為職員は理解できていないと思います。今年度は学習する機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者及びご家族の方が納得して頂けるように説明をおこなっている。また改定の際は、本人ご家族に書面と口頭で説明をさせて頂き、同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入口に面会票箱及び御意見箱を設置している。運営推進会議でも意見交換が出来る場をもうけている。	ユニット入口に意見箱を設置しており、家族来訪時には、意見や要望を聞き出せるような雰囲気を作り、話し合いをしている。	回答する利用者家族に過度な負担とならないように、質問内容や項目数を検討し作成したアンケート調査の再開や、事業所便りの定期発行を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議及び朝礼で職員からの意見や提案を聞く様にしている。管理者はそれらの意見や提案を毎月の運営会議で報告をしている。	日常の業務中に、職員個々の意見を聞いている。自己評価制度を導入し、職員一人ひとりの実績を評価している。また目標を明確に設定し、必要な研修への参加等、スキルアップを促す環境づくりを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年4回の自己評価を基にして個々の実績を把握している。資格取得についての補助金支給・職員の誕生日のお祝い品を頂ける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月第2、3木曜日の研修が法人内であり受講する機会を設けている。研修を受けた職員は職員会議の場を利用して研修報告等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は管理者連絡会等を通して事業所間のネットワーク作りに努めている。又北海道認知症グループホーム協会へ加入して同主催の勉強会への参加も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、ご本人・ご家族に見学して頂き安心して入居できるように努めている。入院中の方は管理者・看護師が訪問し不安の無いような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご本人・ご家族に見学して頂き安心して入居できるように努めている。その際ご家族の要望等をお聴きして入居後のご本人やご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の現状の把握に努め、日常生活支援・おむつサービス・成年後見制度の利用についての説明もおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの『和楽』のもと、利用者と職員が一緒に楽しんだり和んだりできる関係に努めている。利用者と一緒に掃除・調理・洗濯物干し、たたみ等をおこなっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への『中の島たより』や電話連絡により緊急報告、運営推進会議や行事への参加を促し関係が疎遠にならないように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際かかりつけ医をホーム連携病院にすべて変更することはせずかかりつけ医への病院受診の継続をすることもある。知人や友人の来訪は歓迎している。	家族や知人と外出する機会が少ない状況であるが、生活を共にする職員が利用者の一番の馴染みの関係になる様心掛けており、職員と共に馴染みの喫茶店でのコーヒータイム等、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士合う合わないの相性もありますが、仲良く話をしたり、レクリエーションをされている。又外への散歩のとき等は車椅子を押してくださることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の担当者へ情報提供をおこなっている。転居先での生活が安心して出来るようにフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わり方を多くして、思いや意向の把握に努めている。担当者2名体制をとり利用者本位のケアプランの作成に心掛けている。	利用者の担当職員は2名おり、毎日共に過ごす事で個々の思いや要望をくみ取り、希望に沿った支援が行われるように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際にご家族・担当ケアマネから情報提供書・生活歴情報を受け馴染みの暮らしが継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議や朝の申し送り等でその人の「出来る事」「出来ない事」を見極め、その時に合った介助をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員2名の担当制をとり、その職員が中心で介護計画を作成している。見直しも3カ月ごとに実施している。往診医・看護師からの意見やご家族との面会時には要望、意見を聞く様になっている。	定期的な見直しは3カ月毎に行い、身体の変化や本人・家族の要望を取り入れ随時見直しを行っている。医師、看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子を職員間で共有しチェック表・ケアプラン一覧表等直ぐに閲覧できる様にしている。それを基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問鍼灸・通院介助・外出介助などその時のニーズに合わせ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事(町内会運動会・ゴミ拾い)や老健の夏祭り等への参加、近くの喫茶店・コンビニ等へも出かけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談の際今までのかかりつけ医への継続受診の希望時は継続受診の支援をしている。又往診医からの助言を受け専門医への受診の支援もおこなっている。	協力病院医師による訪問診療や、受診は随時行われている。また病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。事業所には看護師が勤務し、利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日看護職員が勤務している。利用者の健康管理、各医療機関との連携や介護職員への助言相談を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は担当医・看護師等へ情報提供をおこなっている。入院中は職員が面会に行き本人の状態や状況の説明を医師か看護師より受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として重度化した場合における指針を示し、入居の際に説明をしている。	利用契約書に、『重度化した場合における指針』が明記されており、関係者全員で方針を確認し共有している。変化があった場合には、医師・看護師・家族と話し合い、全職員が一丸となり支援出来るように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを基に職員会議等で説明をしている。応急手当等の外部研修・内部研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練とビル全体の合同避難訓練を年1回おこなっている。避難訓練には地域の方達にも参加して頂いている。防災備蓄品も備えている。	年2回、利用者や地域住民と共に避難訓練を行っており、非常災害時の対策については重要事項説明書に明記している。年に1度、上階の高齢者住宅と合同避難訓練を実施している。飲料水や食料品は備蓄しているが、運営母体本部で災害時備蓄品の再検討をしている。	台風や地震などの自然災害にも対応できるように、上階の高齢者住宅と連携した防災訓練を実施し、訓練することで見えてくる課題を、高齢者住宅職員と検討し次回の訓練につなげることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や朝の申し送りの時に職員間で言葉かけ等に注意をしている。	尊厳に留意し、言葉かけなどに細心の注意を払い対応している。マニュアルは準備し、接遇研修を受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけなどに注意を払いご本人の想いを傾聴するようにしている。うまく意思を表現できない方には仕草や表情からくみ取るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、毎朝の申し送りに利用者個々の状態を把握し一人一人のペースを大切にしている。又急な外出希望にも出来るだけ対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選び着て頂いている。行事や外出時は化粧等をしている。ひと月半に1回くらいの訪問美容を受けご自分で希望を告げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り(皮むき、盛り付け、配膳など)を利用者と一緒にこなったり、後片付け(食器洗い、拭き・お盆拭き)の手伝いをして頂いたりしている。昼食は職員も一緒に取っている。	利用者と共に、準備・配膳・後片付け等を行い、職員も同じ食卓に着き、会話を楽しみながらゆっくり食事が出来るよう支援している。行事に合わせた食事を提供し、季節感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された献立を基に利用者個々の食事量・飲料のチェックをしている。嚥下状態に応じ刻み・薄味等工夫をしている。月始めに体重測定を実施		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の能力に応じた対応をしている。又月1回の歯科往診・衛生士による口腔内洗浄を実施		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排便・排尿の間隔を把握して適宜トイレ誘導をおこなっている。夜間帯はポータブルトイレを使用オムツに頼らないように支援している。	自立の利用者が多い。一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導している。3ヶ所あるトイレは使いやすく整備され清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時のお茶の時間にヨーグルト(オリゴ糖、ジャム)・牛乳を提供している。午後から歩行運動も取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回となっています。利用者からの希望時にはその都度対応。入浴拒否がある時は順番・曜日変更などで対応している。	本人の希望する曜日・時間・順番で、入浴できるよう支援している。入浴による体力の消耗を減らし、リラックスして入浴ができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、昼寝の時間を設けている。ご自分のペースで過ごすことができるように配慮をしている。夜間帯は照明を暗めにしたり大きな声を慎む等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を一つのファイルに綴じて職員が閲覧、確認ができるようにしている。変更があった時には連絡ノートを使用情報共有をしている。薬箱には錠剤の個数を明記している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が今までしてきた、掃除、裁縫、調理等の支援をおこなっている。又外出を希望された利用者とは、その日に外出をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪の季節以外、天気の良い日は近くの公園に散歩に出かけている。外出レクリエーションとして、花見、果物狩り、紅葉狩り、食事会等に出かけている。外出支援としては近くの喫茶店やコンビニエンスストア等で買い物、飲食を楽しんでいる。	一人ひとりの希望に応じて、買い物・散歩・喫茶店での飲食等の外出支援をしている。利用者の誕生日には個別外出を企画しレストランで食事をするなど、希望に合わせた支援をしている。事業所の行事としての外出や外食が計画的に行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる利用者様は衛生用品の配達時には自分で直接支払いをしている。喫茶店にお茶しに出かけたり、コンビニエンスストアに買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者個々から電話の依頼がある時は取次、各居室にてお話しをされている。また携帯電話をお持ちの方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が狭いが利用者が不快な思いをしないような心地よい空間作りに努めている。暖簾、季節ごとの飾りつけ、利用者の写真を張り出している。	共用空間の壁には、町内会からの連絡や行事写真が飾られ、随所に手すりが効果的に配置されている。くつろぎの場であるリビングは、広く使える様に家具の配置にも気を配っている。リビングから続く廊下は、利用者の歩行訓練や運動に使われ効果を上げている。温度・湿度・換気も適切で、快適な居住空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭い為一人一人の空間作りには苦勞している。しかしダイニングテーブルでは気の合った利用者同士が集まり話をしたり、お茶を飲んだりできるスペースとしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご本人の使いなれた、ベッド、テーブル、タンス、仏壇等を持ちこまれ、利用者ご家族の意向を大事に環境づくりをしている。	各居室には、洗面台・クローゼットを設置し、万が一の災害時に威力を発揮する防火ドアを採用している。利用者が使用していたベッドや家具類を持参し、馴染みの日用品や思い出の品に囲まれ、居心地良く生活ができるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者各居室に名札表示、トイレ、浴室の認識が出来るようにしている。手摺、スロープの設置を行維持し生活が送れる配慮をしている。		